

平成 19 年度授業評価・授業研究報告

保健体育講座 石井浩一

1. 受講対象学生

教育学部学校教育教員養成課程保健体育専修3回生、生活健康課程健康スポーツコース3回生男子

2. 受講生数

18名

3. 場所

第1体育館

4. 授業の目的

体育・スポーツの専門家として最低限必要なバスケットボールのスキル、態度を身につけること。

5. 授業を行う上での工夫

目的に沿った授業を展開する前段階として、まず1回目は、バスケットボール競技のルール、専門用語の説明、スキルチェックに当てた。これは学生に理解を早めてもらうための工夫であり、教員が学生のスキルレベルを把握しておいた方がよいという判断に基づく工夫である。バスケットボールの指導では、専門用語を用いなければならず、たとえもしすぐに理解できなくとも、繰り返し言うことが大事であると考えた。また、実技の指導では、受講生であるバスケットボール部員に指導の補助を頼んだ。

6. アンケート結果に基づく考察

アンケートは授業最終回に行い、2名欠席のため16名から回答を得た。各項目ごとに考察をすすめる。

1) 授業の目的をよく理解できた。

強くそう思う：0

まあそう思う：8

あまりそう思わない：6

全くそう思わない：2

目的については、むろんシラバスに記載しているし、授業第1回目の冒頭でも話した。しかし、シラバスを丹念に読んだのは1名で、部分的にしかなかったのが6名。あとの9名は全く読ん

でいないという回答であった。目的を知らずに、あるいは忘れたまま受講していた学生が半数以上いたことは明らかで、考察は困難である。

2) 授業の進度、時間配分は適切だった。

強くそう思う：0

まあそう思う：9

あまりそう思わない：4

全くそう思わない：3

実技の授業は1回目にスキルチェック、すなわち左右のレイアップシュートを試技してもらい、点数をつけ、課題を提示する。レイアップシュートによって、おおよその個人的技能は把握できるのである。その後、段階的に適宜、分習法、全習法を取り入れながら、進めていき、授業の残り3分の1からはゲームを通しての戦術学習が中心となる。進度、時間配分は概ね適切だったといえよう。

3) 授業のレベルは適切だった。

高すぎた：4

やや高かった：4

ちょうどよい：8

やや低かった：0

低かった：0

レベルが高いと感じた学生が半分、ちょうどよいが半分。これは、毎回のことだが、バスケットボールの経験歴が長いほどちょうどよいと感じ、経験歴が短かったり、ほとんどない者ほど高いと感じる。これは、どの種目にも共通することである。

4) 教員の説明の仕方はわかりやすかった。

強くそう思う：0

まあそう思う：2

あまりそう思わない：6

全くそう思わない：8

説明の仕方については、否定的意見が多い。教員としては、ルールや専門用語を覚えて欲しいし、それに基づいて説明を加えながら練習をさせ

たつもりだが、学生に質問を仰ぐことがほとんどなかったかもしれない。

- 5) 授業内容への質問・発言の機会が適切に与えられ、教員はそれにきちんと対応していた。
強くそう思う：1
まあそう思う：3
あまりそう思わない：9
全くそう思わない：3
4)に連なることで、もっと質問や発言の機会を与えるべきであった。

- 6) 教員の授業に対する意欲・熱意を感じた。
強くそう思う：2
まあそう思う：7
あまりそう思わない：6
全くそう思わない：1
教員も学生の中に入り、説明をしながら練習を共に行ったが、熱意の伝わり方に、温度差があることがわかった。

- 7) 教員は学生の意見を取り入れるなどして、授業を改善するよう努力していた。
強くそう思う：0
まあそう思う：2
あまりそう思わない：9
全くそう思わない：5
改善するよう努力したつもりである。毎回、授業の内容が全く同じにならないよう、一部代えたり、あまり押しつけにならないよう、学生の自主性を重んじる内容にしたこともあった。しかし、どうも学生はゲームで負けると、指導が悪い、改善していないと思う傾向がある。授業におけるゲームは勝つことが目的ではなく、授業で学んだことをどこまでゲームに反映させるかが、大きなポイントである。ゲームの前には、必ず「大切なのは勝ち負けではなく、内容です」と繰り返し言ったが、学生は「勝った」「負けた」が授業評価にも影響するようである。

- 8) この授業の目的は達成された。
強くそう思う：0
まあそう思う：4
あまりそう思わない：8
全くそう思わない：4
これは1)と関連することで、考察は困難である。ただし、授業の雰囲気から察するに、や

はりゲームでうまくできなかった学生が、この設問に対して否定的回答をしたと思われる。

- 9) この授業は全体として満足のいくものだった。
強くそう思う：0
まあそう思う：7
あまりそう思わない：6
全くそう思わない：3
授業が学生にとって100%満足のいくものになることはありえないが、この結果は課題を残した。

- 10) 自由記述（同じような意見は集約した）
○もう少しスモールステップでやった方がわかりやすい。
専門用語がよくわからない。
○新しいことをやる時はもっと説明をしてほしかった。
○スクリーン、ゾーンディフェンスについて触れた方がよい。
○ホワイトボードなどで動きの説明をした方がわかりやすかったと思う。
○練習内容の運動量に偏りがあった。
○練習で行ったことゲームで使って結果が悪くて、自分たちで考えた作戦で結果がよいとほめられた。練習の意味がない。
○チーム間に技能の向上差があった。試合でその違いが出すぎていた。統一した指導を行うべきだと思う。
○途中でチーム替えがあってもよかったと思う。
○ゲームでやろうとする戦術に技術が追いついていかなかった。
○マネジメントの時間が多く、実動的時間にもっと割いて欲しかった。
○アップの時間をもっとゲームにつなげた要素を取り入れたミニゲームを行うと、理想と理解に結びつくと思う。
○もう少し段階を踏んだ授業の展開をしてほしかった。

7. 次年度への課題

バスケットボールの授業については、アンケートの結果を真摯に受け止め、一層授業方法の工夫を凝らしていきたい。